

北海道雪氷ニューズレター

No.27 2007年11月16日発行

(社)日本雪氷学会北海道支部

—— 内 容 ——

平成19年度(社)日本雪氷学会 北海道支部 地域講演会のお知らせ

平成19年度(社)日本雪氷学会 北海道支部 地域講演会 「北国に生きる ～雪氷圏の海、生活、歴史を学ぶ～」

日本雪氷学会北海道支部では、毎年、北海道各地で「雪氷」に関連する興味ある話題を取り上げ、「地域講演会」を実施しています。今年度の地域講演会は、歴史ある函館で開催致します。

比較的温暖な地球雪氷圏の一角を占める函館は、江戸時代より海洋交通の要衝を占め、現在でも水産と海洋に関する研究が盛んです。この函館で、北国の海、雪氷、歴史について学ぶ下記の講演会を開催致します。どうか奮ってご聴講下さいますようご案内申し上げます。

1. 開催日・場所

開催日：平成19年12月8日(土) 13:20～16:20

場 所：函館市民会館 大会議室 (函館市湯川町1-32-1)

2. 開催機関

主 催：社団法人 日本雪氷学会 北海道支部

共 催：社団法人 土木学会 北海道支部

後 援：函館市

3. 参加費・参加申込み

参加費は無料です。参加申込みも不要です。当日会場へお越し下さい。

4. プログラム

- ・ 開会挨拶 (13:20～13:25)
- ・ 講演 (13:25～14:15)
「北国の冬の雪氷環境と私たちの生活 ～自然と人の共生を考える～」
NPO 法人雪氷ネットワーク (北の生活館 館長) 秋田谷英次 氏
- ・ 休憩 (14:15～14:25)
- ・ 講演 (14:25～15:15)
「亜寒帯の海洋環境と生物生産 ～北の海が育む海の幸～」
北海道大学大学院水産科学研究院 教授 齊藤誠一 氏
- ・ 講演 (15:15～16:05)
「文明開化のサクセス・ストーリー ～函館氷の誕生～」
函館短期大学 教授 猪上徳雄 氏
- ・ 質疑 (16:05～16:15)
- ・ 閉会挨拶 (16:15～16:20)

5. 講演要旨

北国の冬の雪氷環境と私たちの生活 ～自然と人の共生を考える～

NPO 法人雪氷ネットワーク（北の生活館 館長） 秋田谷英次 氏

あらゆる生物は地球の自然の中でしか生きていけない。自然が壊れたら人類は生存できない。現代社会は科学技術の発展で物質的に豊かになったが、一方では戦争、自然破壊、温暖化・公害も急速に拡大してきた。自動車普及するにつれ、雪道を夏と同じように高速で走るためにスパイクタイヤが普及した。その結果、雪道でもスリップせずに走れるようになったが、粉じんが大気汚染や健康被害をもたらしたため、全面禁止となった。

いくら除雪をしても、夏のような道路状態を維持するのは難しい。除雪機械の充実、ロードヒーティング、凍結防止剤の散布は勿論有効だが、費用と環境への影響を考えると、おのずから限界があるはずだ。冬は雪が降るのは当然なのだから、雪との共生が叫ばれ、雪のマイナス面だけでなく、プラス面をも注目するようになってきた。その一つが親雪である。雪を楽しむ、雪と遊ぶ、雪に親しむこと、これらも雪との共生である。雪を観光資源や自然体験の題材として人々が集い、雪国特有の文化や生活の知恵を生かした「雪との共生」を実現したい。

亜寒帯の海洋環境と生物生産 ～北の海が育む海の幸～

北海道大学大学院水産科学研究院 教授 齊藤誠一 氏

オホーツク海やベーリング海は亜寒帯海域の縁辺海のひとつである。これらの海を特徴付けるのは、季節海水（冬季のみの海水）の存在である。この季節海水は、オホーツク海では沿岸域に接岸・離岸して海上を漂って、流水と呼ばれる。この流水が、どのように生物生産に寄与しているか、オホーツク海の地まきホタテガイ漁場を例に取り上げる。オホーツク海の地まきホタテガイ漁業では、貝の小型化や年々の成長の差が問題になっている。海洋環境がこの成長にどのように影響を与えているのかを理解するには、ホタテガイ漁場の基礎生産過程やそれにおよぼす海水分布を空間的にかつ時系列でモニタリングする必要がある。ここでは、衛星による観測データを用いて、オホーツク海南西部における植物プランクトン分布、海水分布が、どのようにホタテガイの成長に影響をおよぼしているか解説し、北の海がどのように海の幸を育むかを浮き彫りにする。

文明開化のサクセス・ストーリー ～函館氷の誕生～

函館短期大学 教授 猪上徳雄 氏

明治初期、日本では食や医療に大きな転換期が訪れました。特に肉食の解禁による食の洋食化、医療の進歩などがあります。それらに伴い食肉の腐敗抑制や体を冷やすことの重要性の普及のために良質の氷が求められるようになりました。そこに注目した一人の日本人がいました。多くの苦難と国際競争に打ち勝って、氷業を一大事業にまで押し上げた中川嘉兵衛が、その人です。なんとしても、良質で安い国産氷の普及を図りたいとして販売競争、自然との闘い、資金難を克服し、事業を成功に導いた功績は大きい。これによって、日本における肉食の一般への普及、医療分野での氷の重要性の認識、さらには「函館氷」として氷のブランド化による函館の名前を全国に広げることに貢献しました。東京から箱館まで郵便が届くのに約30日を要した明治初期に、なぜ函館の地でこの文明開化のサクセス・ストーリーが可能だったのかを振り返ってみる。

6. 問い合わせ先

(社)日本雪氷学会北海道支部 担当：松下 拓樹

(独)土木研究所 寒地土木研究所 Tel: 011-841-1746 e-mail: hmatsu@ceri.go.jp

(社)日本雪氷学会 北海道支部 (HP アドレス: <http://www.seppyo.org/~hokkaido/>)

事務局：〒060-0819 札幌市北区北19条西8丁目 北海道大学低温科学研究所 支部幹事長 石井 吉之

Tel : 011-706-5583 Fax : 011-706-7142 E-mail : nsdkanji@lowtem.hokudai.ac.jp

ニューズレター連絡先：(株)ドーコン

幹事(ニューズレター担当) 今西 伸行

Tel : 011-801-1576 Fax : 011-801-1577